



白山市立美川小学校

校長室だより

2025

一人一人が輝く
★チーム美川令和7年6月27日
白山市立美川小学校
白山市美川和波町ワ229
TEL 278-2063

～スマートフォン・ゲーム・動画視聴と子どもたちの生活を見つめて～

校長 中野 和人

いよいよ夏休みまで1か月を切りました。子どもたちは、暑さに負けず、毎日元気に学校生活を送っています。1学期のまとめに向けて、学習や様々な活動に励んでいます。

【デジタルメディアとの付き合い方、今一度考えてみませんか？】

さて、近年、スマートフォンやゲーム、動画視聴といったデジタルメディアは、子どもたちの生活に深く浸透しています。便利な一方で、そこから見えてくる課題に、心を痛めている保護者の方もいらっしゃるのではないでしょうか。

例えば、

- ・夜遅くまでの動画視聴やゲームで、朝起きるのがつらそう。
- ・顔を合わせて話す機会が減り、友達との関係が少し希薄になっているようを感じる。
- ・ゲームやSNSに夢中になりすぎて、自分で時間をコントロールするのが難しくなっている気がする。
- ・インターネット上の情報を安易に信じてしまったり、危険なサイトにアクセスしたりするリスクも心配。

こうした様子が見られると、学校での学習や日常生活にも影響が出ないかと、私たちも心配しています。



【家庭・学校・地域で連携し、子どもたちの健やかな成長を支えましょう】

子どもたちが自分の生活を振り返り、より良い習慣を身につけていくためには、ご家庭、学校、そして地域が手を取り合って取り組むことが何よりも大切です。

ご家庭では、例えば、次のようなことを話し合ってみてはいかがでしょうか。最も大切なのは、お子さんとじっくり話し合い、ご家庭のルールを決めて実践することです。

- ・スマートフォンやゲームを使う時間を家族で具体的に決める
- ・就寝時間と起床時間を整え、規則正しい生活リズムを作る
- ・家族みんなで会話をしたり、一緒に過ごしたりする時間を大切にする
- ・読書や外遊びなど、デジタル以外の活動もバランス良く取り入れる



夏休みを前に、この機会にぜひ、ご家庭でデジタルメディアとの向き合い方について話し合い、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境を共に作っていきましょう。

裏面はシンガポールのサイトに投稿され話題になった、小学校の先生をしている女性の体験談です。読んだ私もドキッとしました。大人の私たちも、ネットと子育てや教育について考えてみませんか。

【投稿内容】

遅い夕食を終え、児童たちから集めた作文をチェックし始めた女性。夫は近くに座って、スマートフォンでお気に入りのゲームアプリを楽しんでいました。すると、最後の1人が提出した作文に差し掛かったところで、急に女性が泣き始めました。

「どうしたの？」

慌てて声を掛ける夫。

「昨日、子どもたちに宿題を出したの。”自分の願い”というお題で作文を書いてもらったの。それで、今最後の1つを読んでいたんだけど、これを読んだら泣かずにはいられないわ」と答える女性。夫がその内容を聞いたところ、女性は静かに作文を読み始めました。

ぼくの願いはスマートフォンになることです。

なぜなら、ぼくのママとパパはスマートフォンがとても大好きだから。

ママとパパはスマートフォンばかりを気にして、ときどきぼくのことを忘れてしまいます。

ぼくのパパが仕事から疲れて帰って来たとき、パパはぼくではなく、スマートフォンと時間を過ごします。

ママとパパが大事な仕事をしていてスマートフォンが鳴り出したら、1回鳴っただけでもすぐに電話に出ます。

ぼくが泣いているときでさえ・・・そんな風にはしてくれないので。

ママとパパはぼくとではなく、スマートフォンでゲームをして遊びます。

スマートフォンで誰かと話しているとき、ぼくが何か伝えたいことがあっても、ぼくの話を聞いてくれません。

だから、ぼくの願いはスマートフォンになることです。

ハッとした夫は感情的になり、急いでこう聞き返しました。

「一体誰がこれを書いたんだい？」

「私たちの息子よ」

女性の答えは、夫が一番聞きたくないものでした。

この話をモデルに日本でも絵本になりました。

「ママのスマホになりたい」

作：のぶみ

出版：WAVE出版（2016）